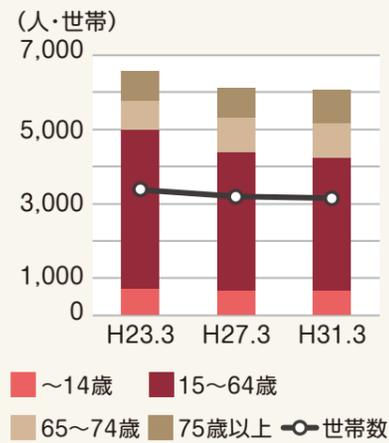


第4地区北部の統計データ

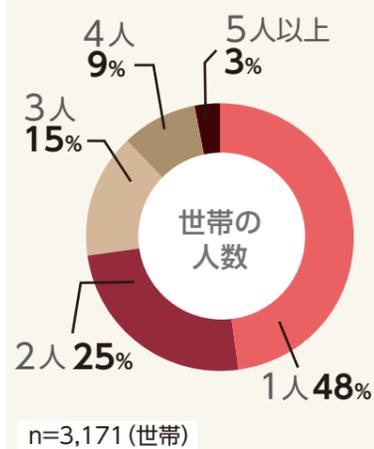
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	6,658	744	4,336	763	815	23.7	3,408	1.95
H27.3	6,204	683	3,791	918	812	27.9	3,185	1.95
H31.3	6,128	690	3,650	914	874	29.2	3,171	1.93

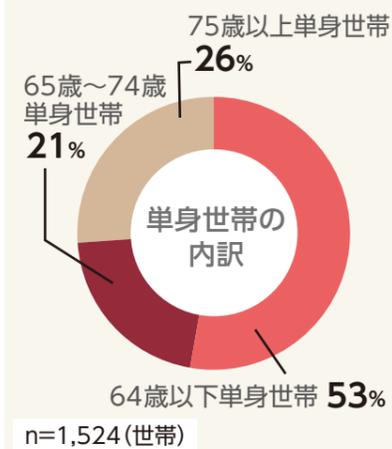
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	3,122	1,483	47.5	306	380	302
H31.3	3,171	1,524	48.1	326	396	297
R2.3	3,310	1,548	46.8	330	394	303

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	599	10.2
1年未満	368	6.3
1年以上5年未満	977	16.6
5年以上10年未満	724	12.3
10年以上20年未満	1,009	17.2
20年以上	1,339	22.8
居住期間「不詳」	855	14.6

データから見た第4地区北部

人口は減少傾向にあり、特に15～64歳の勤労世代の減少が大きくなっています。

高齢化率は29.2%で中区平均(23.4%)を大きく超えていて、区内では寿地区に次ぎ、2番目に高くなっています。また、単身の高齢者が多く、65歳以上の2人暮らしを含めると、全世帯の3分の1が高齢者のみの世帯となります。

居住年数を見ると、出生時からと20年以上を合わせると33%となり、長くこの地区に住み続けている住民が多いことが分かります。

第4地区北部

5年後の目指す姿

こどもたちの「ふるさと」になるまち
～安心して住みやすい 誇れるまち～

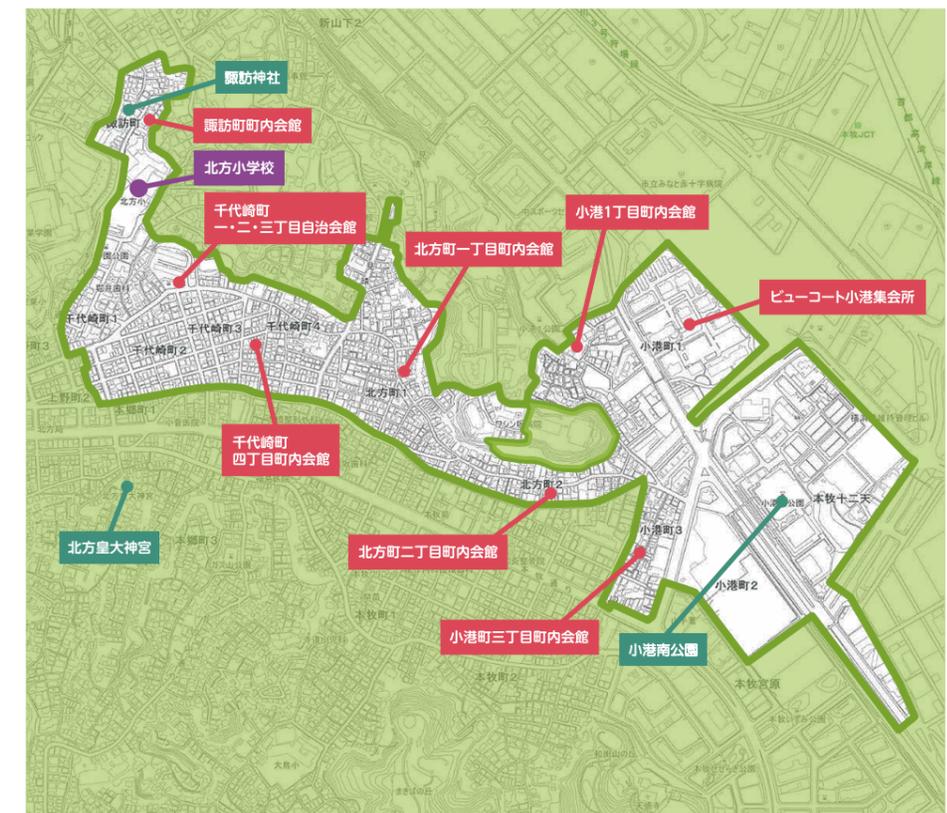


千代崎四囃子連 ▲

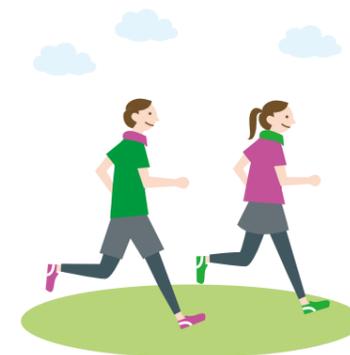
子育てサロン「ひだまり」 ▲

第4地区北部は こんなまちです

坂の多い丘陵地から海辺の埋立地へと東西に広がり、昔ながらの下町の風情が残る住宅地と集合住宅が立ち並ぶ地域があります。子育てサロンや高齢者食事会等、世代の垣根を越えた見守り活動が盛んに行われ、介護予防の観点からの健康づくりの活動にも積極的に取り組まれています。



北方町・小港町・諏訪町・千代崎町・本牧十二天・山手町の一部



これまでの計画(第3期)の振り返り

自治会町内会や民生委員・児童委員が消費生活推進員と一緒に、高齢者食事会「あじさい会」において振り込め詐欺を防止するための紙芝居を行うなど、増加傾向にある単身世帯の高齢者を見守る活動を行いました。

民生委員・児童委員が中心となりキャラバン・メイトを養成し、山手警察署・加賀町警察署・横浜銀行で認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症の人とその家族が安心して暮らしていけるよう支援を行いました。

コロナ禍により地域行事が減少したことで、これまでやってきた自治会町内会の活動が交流の場として大切な役割を果たしていることを改めて感じました。

第4期計画はこのようにつくりました

第4地区北部では、「まちづくり会議」という名称で地区別推進会議を開催しています。

「まちづくり会議」では、7つの自治会町内会を3つのグループに分け、グループワークを行いました。地域で今後も続けていきたい取組や、今後始めたい地域活動などについて意見交換をしながら計画にまとめました。



nakanaka photo

第4期計画

目標	第4期の取組	取り組む理由	視点
参加者も担い手も楽しみながら仲間を作り、ゆるやかに見守り・支え合える関係をつくってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 日ごろから声を掛け合い、助け合える関係をつくりたい。(あいさつ、声掛け、消費者被害の予防啓発、多言語対応) 誰もが参加しやすくなるよう行事や活動を工夫し、仲間づくりや見守り合える居場所づくりの取組を続けます。(子育てサロン「ひだまり」・高齢者食事会「あじさい会」・老人会・運動会・お祭り・餅つき・成人のお祝い・グラウンドゴルフ・各町内における小さな単位での活動) 認知症やその介護者への理解を広めていきます。(企業も含めた認知症サポーター養成講座) 地域活動の担い手同士で定期的に情報を交換し、活動状況を地域に伝えていきます。「まちづくり会議」の開催・「まちづくり会議通信」の発行) 	<ul style="list-style-type: none"> いざというときや困ったときに身近な人同士で助け合えるよう、隣近所のつながりを深めたい。 日本に慣れない外国の方々と理解し合える関係をつくりたい。 新たに住民となった方が地域の人と出会い、つながる場をつくりたい。年齢に関わらず様々な世代のつながりをつくりたい。 高齢になっても、認知症になっても安心して過ごせるまちにしたい。認知症の家族への支援にも目を向けていきたい。 多くの人に様々な地域活動を知ってもらい、まちに関心を持ってほしい。 時々状況をふまえて、できる活動を行いたい。 	えん結び
気軽に誰もが参加できる地域活動を通して、健康で元気なまちづくりを進めよう。	<ul style="list-style-type: none"> まちぐるみで健康意識を高めるための活動を続けます。(ラジオ体操・ウォーキング・健康講座・脳トレ講座・研修) 趣味や特技を生かして活動できる場をつくりたい。 みんなで声を掛け合い、町内美化に取り組めます。(草刈り・ごみ捨ての見守り) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康だけでなく、隣近所の人と一緒に健康になるよう声を掛け合い、まち全体が健康になるようにしたい。 役割を持って参加できる活動があることを多くの人に周知し、元気な人を増やしたい。 誰もがルールを守り、気持ちよく住めるまちにしたい。 	元気いっぱい
子どもたちが安心して暮らしやすいまちにしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 多世代交流を深め、顔の見える関係づくりを進めます。(千代崎四囃子連・運動会・防災訓練・餅つきなど) 子育て世代が交流できる活動を続けます。(子育てサロン「ひだまり」・子ども会) 身近な見守り活動により、地域の一人ひとりが子どもたちの健やかな成長をゆるやかに見守ります。(児童の登下校時のあいさつ運動・夜警など) 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代に地域行事に参加してもらいたい。 親子の孤立を防ぐため、地域全体で子育てをしていきたい。 地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守り、地域活動を未来につないでいきたい。 	子どもたちは宝もの



第4地区北部

5年後の目指す姿

こどもたちの「ふるさと」になるまち
～安心して住みやすい 誇れるまち～



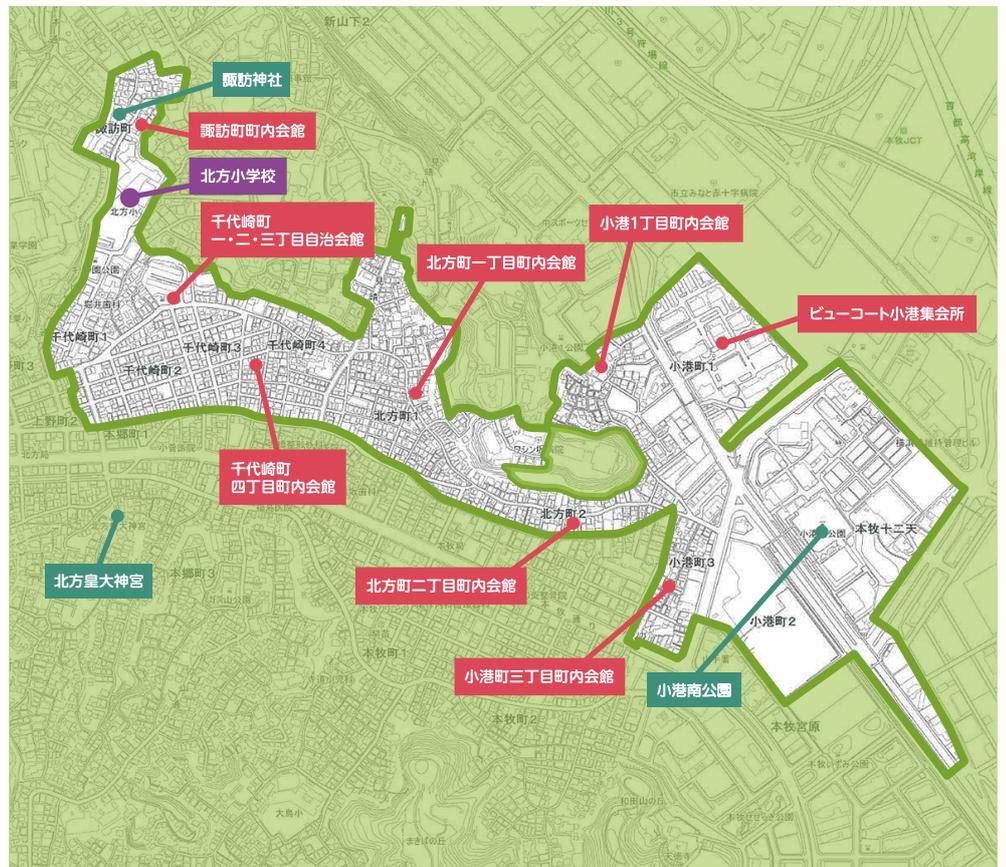
千代崎四囃子連 ▲



子育てサロン「ひだまり」 ▲

第4地区北部は こんなまちです

坂の多い丘陵地から海辺の埋立地へと東西に広がり、昔ながらの下町の風情が残る住宅地と集合住宅が立ち並ぶ地域があります。子育てサロンや高齢者食事会等、世代の垣根を越えた見守り活動が盛んに行われ、介護予防の観点からの健康づくりの活動にも積極的に取り組まれています。



北方町・小港町・諏訪町・千代崎町・本牧十二天・山手町の一部

これまでの計画(第3期)の振り返り

自治会町内会や民生委員・児童委員が消費生活推進員と一緒に、高齢者食事会「あじさい会」において振り込め詐欺を防止するための紙芝居を行うなど、増加傾向にある単身世帯の高齢者を見守る活動を行いました。

民生委員・児童委員が中心となりキャラバン・メイトを養成し、山手警察署・加賀町警察署・横浜銀行で認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症の人とその家族が安心して暮らしていけるよう支援を行いました。

コロナ禍により地域行事が減少したことで、これまでやってきた自治会町内会の活動が交流の場として大切な役割を果たしていることを改めて感じました。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>参加者も担い手も楽しみながら仲間を作り、ゆるやかに見守り・支え合える関係をつくっていきこう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日ごろから声を掛け合い、助け合える関係をつくりまします。(あいさつ、声掛け、消費者被害の予防啓発、多言語対応) ● 誰もが参加しやすくなるよう行事や活動を工夫し、仲間づくりや見守り合える居場所づくりの取組を続けます。 (子育てサロン「ひだまり」・高齢者食事会「あじさい会」・老人会・運動会・お祭り・餅つき・成人のお祝い・グラウンドゴルフ・各町内における小さな単位での活動) ● 認知症やその介護者への理解を広めていきます。(企業も含めた認知症サポーター養成講座) ● 地域活動の担い手同士で定期的に情報を交換し、活動状況を地域に伝えていきます。([まちづくり会議]の開催・「まちづくり会議通信」の発行)
<p>気軽に誰もが参加できる地域活動を通して、健康で元気なまちづくりを進めよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まちぐるみで健康意識を高めるための活動を続けます。(ラジオ体操・ウォーキング・健康講座・脳トレ講座・研修) ● 趣味や特技を生かして活動できる場をつくりまします。 ● みんなで声を掛け合い、町内美化に取り組みまします。(草刈り・ごみ捨ての見守り)
<p>子どもたちが安心して暮らしやすいまちにしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多世代交流を深め、顔の見える関係づくりを進めます。(千代崎四囃子連・運動会・防災訓練・餅つきなど) ● 子育て世代が交流できる活動を続けます。(子育てサロン「ひだまり」・子ども会) ● 身近な見守り活動により、地域の一人ひとりが子どもたちの健やかな成長をゆるやかに見守ります。(児童の登下校時のあいさつ運動・夜警など)

第4期計画はこのようにつくりました

第4地区北部では、「まちづくり会議」という名称で地区別推進会議を開催しています。

「まちづくり会議」では、7つの自治会町内会を3つのグループに分け、グループワークを行いました。地域で今後も続けていきたい取組や、今後始めたい地域活動などについて意見交換をしながら計画にまとめました。



nakanaka photo

取り組む理由

視点

- いざというときや困ったときに身近な人同士で助け合えるよう、隣近所のつながりを深めたい。
- 日本に慣れない外国の方々とは理解し合える関係をつくりたい。
- 新たに住民となった方が地域の人と出会い、つながる場をつくりたい。年齢に関わらず様々な世代のつながりをつくりたい。
- 高齢になっても、認知症になっても安心して過ごせるまちにしたい。認知症の家族への支援にも目を向けていきたい。
- 多くの人に様々な地域活動を知ってもらい、まちに関心を持ってほしい。
- 時々々の状況をふまえて、できる活動を行いたい。

えん結び

- 自分の健康だけでなく、隣近所の人と一緒に健康になるよう声を掛け合い、まち全体が健康になるようにしたい。
- 役割を持って参加できる活動があることを多くの人に周知し、元気な人を増やしたい。
- 誰もがルールを守り、気持ちよく住めるまちにしたい。

元気いっぱい

- 子育て世代に地域行事に参加してもらいたい。
- 親子の孤立を防ぐため、地域全体で子育てをしていきたい。
- 地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守り、地域活動を未来につないでいきたい。

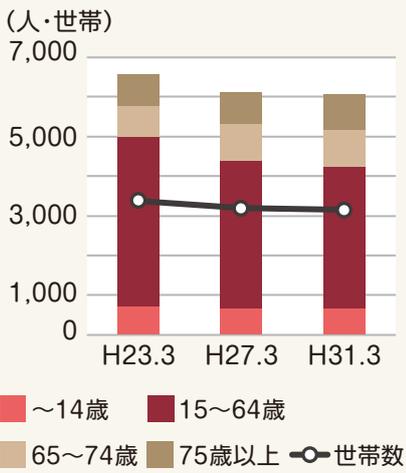
子どもたちは
宝もの

第4地区北部の統計データ

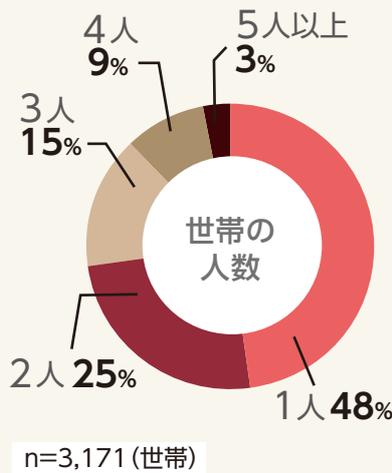
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	6,658	744	4,336	763	815	23.7	3,408	1.95
H27.3	6,204	683	3,791	918	812	27.9	3,185	1.95
H31.3	6,128	690	3,650	914	874	29.2	3,171	1.93

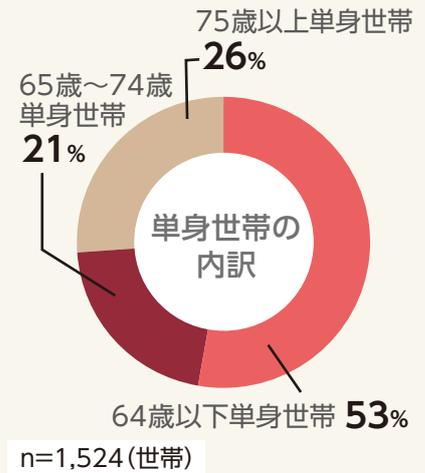
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	3,122	1,483	47.5	306	380	302
H31.3	3,171	1,524	48.1	326	396	297
R2.3	3,310	1,548	46.8	330	394	303

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	599	10.2
1年未満	368	6.3
1年以上5年未満	977	16.6
5年以上10年未満	724	12.3
10年以上20年未満	1,009	17.2
20年以上	1,339	22.8
居住期間「不詳」	855	14.6

データから見た第4地区北部

人口は減少傾向にあり、特に15～64歳の勤労世代の減少が大きくなっています。

高齢化率は29.2%で中区平均(23.4%)を大きく超えていて、区内では寿地区に次ぎ、2番目に高くなっています。また、単身の高齢者が多く、65歳以上の2人暮らしを含めると、全世帯の3分の1が高齢者のみの世帯となります。

居住年数を見ると、出生時からと20年以上を合わせると33%となり、長くこの地区に住み続けている住民が多いことが分かります。